

研究科の活動

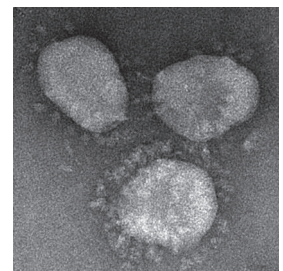
広島大学の新型コロナウイルス研究



坂口 剛正 大学院医系科学研究科 医学分野 ウイルス学 教授

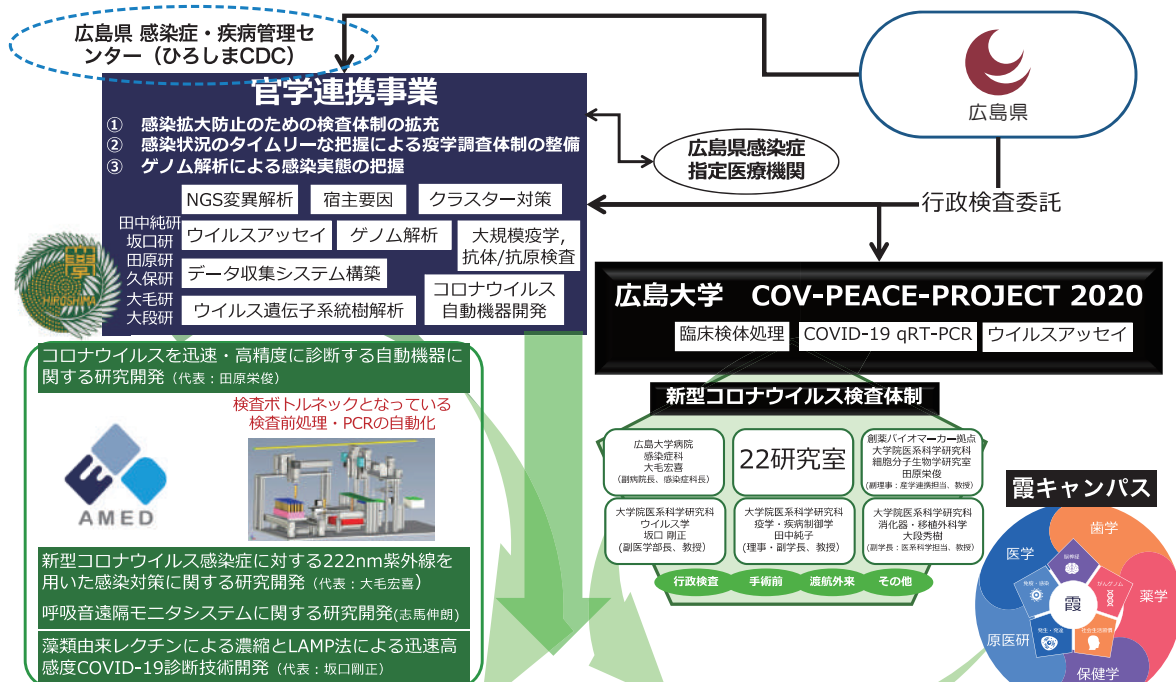
クラスター感染発生時に広島大学内でPCR検査を行うため、霞の研究室を広く募って、PCR検査体制を構築しました（広島大学COV-PEACE-PROJECT）。検査体制構築のための説明会や研修には、非常に多くの研究室の方々にご参加いただき、大変感謝しております。幸い爆発的な流行は起こらず、プロジェクトをフル稼働させるには至っていませんが、広島県依頼の受託検査、院内に必要な検査および渡航外来でのPCR検査等を続けております。

広島大学では多くの研究室が新型コロナウイルスの研究に取り組んでいます。日本医療研究開発機構（AMED）の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する研究開発費に、広島大学から4件の課題が採択されております。これらの内容は多岐にわたりますが（図参照）、それまでの個々の研究を新型コロナウイルス対策にうまく応用できた例であると思います。また、学内からの薬剤の中に非常に高い抗ウイルス能を見出して特許出願に至ったものもあります。他に治療用抗体の開発、あるいは病態に関係する特殊な抗体の検査を行っている研究室もあります。



SARS-CoV-2 広島株の電子顕微鏡像
ウイルス学 東浦 彰史助教撮影

新たな取り組みとして、広島大学と広島県との官学連携事業が始まっており、抗体を用いた大規模疫学調査、検体からのウイルス培養、ウイルス遺伝子系統解析等を行っています。広島県内の病院のPCR検査標準化など、検査における問題の解決にも関与しています。また、官学連携事業では広島県感染症指定医療機関と連携・協力し、PCR検査陽性者の唾液や血液を利用して、抗原・抗体検査による疫学調査、検査精度の向上、自動検査機器の開発および感染者の遺伝子解析から感染に関わる宿主因子の探索を行っています。これらによって新型コロナウイルス制御に寄与する研究成果が得られることを願っています。



広島大学 コロナ関連研究の推進

広島大学 COV-PEACE-PROJECT
田中 純子教授（疫学・疾病制御学）作成